

家庭教育学級新聞

発行 山武市教育委員会生涯学習課

山武市役台 279-1

TEL 0475-80-1456 FAX 0475-80-1400

Email: shogaigakushu@city.sammu.lg.jp

豊岡小第2回家庭教育学級 H24.11.13(火)

親子陶芸教室

窯に入れ、出来上がりは 1 カ月
以上先になるけど、楽しみです



ハンバーグのせようかな・・・



できた!! 親子の力作



「子どもが思ったより上手に作
れた」など、子どもの力を見直す
きっかけにも・・・



仕事を休んで来たという
お父さんからも「おもしろ
かった!」との感想が寄せ
られました



家でお母さんと一緒に何か
作ることはあまりないから
今日はとても楽しい!

今回取り上げたのは、豊岡小学校の家庭教育学級「親子陶芸教室」です。
この家庭教育学級は一年生から三年生までの親子が全員参加で実施され、保護者の皆様にも人気の講座になっています。「民芸みはし」の佐久間氏に教わりながら、茶碗やお皿など思い思いの作品を仕上げていきました。
保護者からは「親子で何かすることがあまりないので良い機会だった」「陶芸は普段できないので子どもが楽しんでいたし、今日は一緒にできて良い時間だった」など、子どもとの時間を楽しむ声のほか、子どもからは「お母さんが来てくれたからうれしい」などの声上がり、親子共に一緒に楽しむ時間を持てたことを喜んでいられる様子でした。

我が家の子育て

山武市立山武西小学校
教頭 長門春江



先日、数十年ぶりに息子の母子手帳とアルバムを懐かしく手に取りました。すると、わが子をお腹に授かった日の感動がよみがえり、胸が熱くなってきました。
我が家には、息子が一人います。共働きですので、幼稚園の送迎はもろろんのことさまざまな面で両親に助けってもらいながら子育てをしました。

ある日、「○○ちゃんのお母さんは、綺麗なドレスを着てお迎えに来てくれるのよ。僕の家はどうしていつもおばあちゃんなの。」と言われたことがありました。知らず知らずの間に、寂しさを味わっていたのだと思うと、切ない気持ちになったものです。「お母さんは、お迎えの時間は仕事をしているの。だからお迎えに行つてあげたいけれど、ちよつと無理かな。」と苦しい言い訳をしたことがあります。我が子は誰よりもかわいいものです。「ただいま。」と帰ると玄関まで走ってきて、「お帰りなさい。」の一言に疲れも癒されて、元気をもらっていました。

私が子育てをして、感じたことを述べたいと思います。
一 躰は家庭で

「自分が人に言われたり、されたりしていやなことは、友達にはしてはいけません。」と息子によく言っていました。私は、基本的な生活習慣を身につけさせるのは家庭であると考えています。ですから、礼儀や挨拶、食事のマナー、靴の脱ぎ方などの細かいことでも厳しく教えました。これは大人になった時、いや親になった時に困らないようにという親心だったように思います。

躰については、家族が同じ価値観であることが重要なポイントだと考えています。我が家では、祖父母が息子にとって良いクッションとなっていたことは確かです。

二 共有の時間を大切に
普段一緒にいる時間が少ないので、休日や帰宅してからは、できるだけ子どもと一緒に過ごすように心がけました。特に小学校低学年までは、この時間が大切だと思えます。成人した息子が「小さい頃は、よくケーキやクッキーを焼いたりしたね。」と独り言のようにつぶやいたことがありました。一緒に掃除や食事の準備をしたり、寝る前に本を読んだりしました。息子は、物を作ることが好きでしたので、ダンボールや紙で家やロボットなどを作ったこと

※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。

もありました。息子より私の方が夢中になってしまふこともあったようです。また、思春期に入ってから学校であったことをよく話してくれたので、どんなことでも一生懸命に聞くようにしました。知らず知らずのうちにコミュニケーションが取れて、親子の絆も深めていくことができました。

つまり、子どもにとっては、旅行や外出は楽しい思い出となっているかもしれないが、それよりも子どもの欲求にあった時間を一緒に過ごしたり、会話を楽しんだりしたことの方が意義があるようです。

三 指示を少なく
毎日のように、慌ただしく「宿題はやつたの。」「明日の準備は、終わったの。」息子は、「終わってるよ。」「言われなくても分かっているよ。」「今やろうと思つていたんだよ。」と不機嫌そうな声で答えます。私自身に余裕がないときは、決まってるこのような言葉を矢継ぎ早に発することが多くなつてしまっていました。小学校中学年頃からは、終わつていない場合は、いつできるのか息子自身に決めさせるようにしていました。

また、すると、自分で決定したのでやらされてるという意識はなく、自分から進んでやっているという意識に変わっていました。自主性を育むためには、周りの子どものことをよく理解したり、判断や決定したりすることができるよう環境を整えることが大切だと思います。そして、じっくりと待つてあげることです。たくさんのお子さんを立派に育てられた方に比べ、一人しか子育てをしていない私が偉そうなことは言えませんが参考にしたいだけば幸いです。

子育てに教本やマニュアルはありません。もちろん自信もありません。みなさん不安でいっぱいだと思います。笑ったり、泣いたりを繰り返しながら、親も子どもと共に成長していくのです。

わが子の幸せと成長を願つて、あふれんばかりの愛情を注ぐのです。温かく時には厳しく手助けをするだけで・・・

末筆になりましたが、このような執筆の機会をいただきまして誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。



山武南中第2回家庭教育学級

H24. 11. 30 (金)

講師：藤井輝明先生



講師の藤井先生は、2歳頃から「海綿状血管腫」という病気で顔に大きなアザがあります。そのために過酷ないじめにあってきましたが、現在は、その体験をもとに顔に病気や傷を抱える人への偏見をなくすため全国を飛び回って活動されています。

今回、生徒達と一緒に先生の講演を聞いた保護者からは「先生の明るいところが子どもたちの心を開いてくれたのではないか」「母親の対応がとても前向きで良い関わりで、親の関わりが大切だと思った」「ハンデを使命に変えて行動している姿に感動した」などの感想がありました。

自分は良い両親と先生に恵まれたと話す先生は「今の自分を作っているのは、母の力が大きい」と特に母親の対応を会場の保護者に話してくださいました。今は本やDVDを出せるこの顔を誇りに思っているという言葉が印象的でした。

藤井先生の語る「母のポジティブ思考の子育て」

- 子どもは情熱の炎を燃やして育てないといけない
- アザのある自分をそのまま認め、「あるがままに支える」と言ってくれた
- 学校の先生にも状況をよく説明しておいてくれた
- いじめがあると想定して、日頃から対策を立てて実行
- 自信を持って生きられるように、水泳・スキー・バイオリンをやらせてくれた
- 引きこもっていると外の世界は楽しいと連れ出してくれた
- 育てたように育つ



「みんなその人にしかできない使命を持って生れてきている」と語る藤井先生

藤井先生が尊敬する 小学校の先生の言葉

- ◆ 事実をほめる
- ◆ タイミングよくほめる
- ◆ 心をこめてほめる
- ◆ 3つほめて1つ叱る



山武西小家庭教育学級

H25. 1. 31 (木)



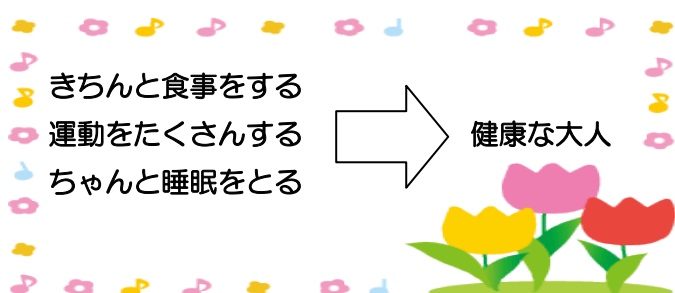
「小学生へのお薬教育と薬物乱用防止について」

講師：学校薬剤師 伊藤克洋先生



【お話のポイント】

- ・薬は水か白湯で飲む
- ・人間には自然治癒力が備わっているので、薬はその手助けをするもので、頼りきってはいけない
- ・小児は、脳のバリアが未発達なので、使用できる薬の種類に限られ、大人の半量なら与えてよいと考えてはいけない
- ・お酒やたばこも薬物で、大人なら解毒できるということで20歳でOKだが、シンナーや覚せい剤は大人でも防ぎきれないため体に害が出る



今回は、薬剤師の伊藤先生からお話を伺いました。山武西小での児童への事前のアンケートから、毎日ご飯を食べている児童は80%以上でした。また、全体の15%が薬を常用している結果が出ました。その中で薬の名前や効能をわかっている子は少なかったようです。先生は薬を飲む時は当事者意識が大切だと話されました。

また朝食を食べないで薬を飲むと効き方も変わってしまうし、大人になった時にきちんと飲めない可能性が高くなると警鐘を鳴らしました。

「普通の薬がきちんと使えることが違法薬物にいかないために大事だと確信している」と現場での実感を伺うことができました。

子育て電話相談

子育ての悩みやお子さんの心配ごとでお困りの方の相談をお受けします。まずは電話でご相談ください。

希望により面談・家庭訪問もいたします。相談は無料で秘密は厳守しますので、ご安心ください。

相談電話番号 0475-80-1456

相談日 月・水・木・金
(水曜の午後と祝祭日は除く)

相談受付時間 午前9時から午後4時半



今年は例年以上に雪に見舞われた年だったような印象があります。家の前の雪かきをしながら、雪深い地域に住む方々はさぞかし大変だろうと思いを巡らせ、千葉でよかった、山武でよかったと思いました。

来年度山武市の新小学1年生は約370名、今年度の中学3年生は約560名です。この数字を見ただけでも少子化を実感します。今年もニュースで、お年寄りの雪かき中の事故を伝えていました。若者に雪かきを頼むことができない状況なのでしょう。年を取っても自分で自分のことができるように、雪かきができるように、体力をつけておく必要性を感じた次第です。

さて、このままいくと山武市の将来が心配になりますが、**少ない子どもたちを立派に育てあげることができるように**、新年度も保護者の皆さまに有意義な家庭教育学級・講座・情報を提供していきたいと思います。

担当 加瀬

